

経済指標レポート 第213号

(社)関西経済連合会 経済・経営グループ(担当:壺井)

Tel : 06 - 6441 - 0102 Fax : 06 - 6441 - 0443

内閣府が発表した10月の月例経済報告では、日本経済の基調判断として、「景気は緩やかに回復している」との見方を示し、先行きについても、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込んでいる。

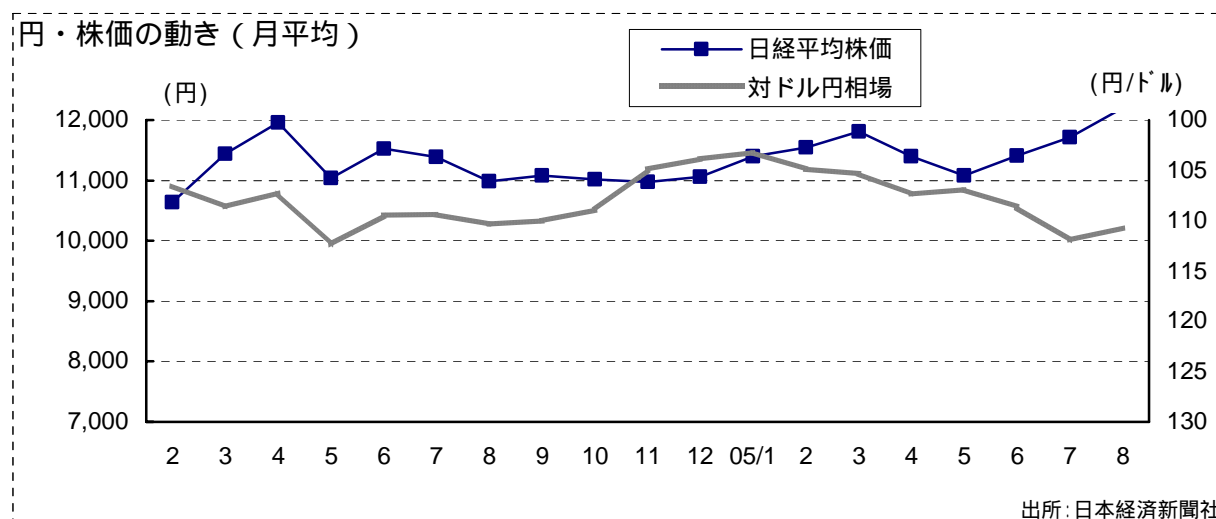
原油価格の高騰による景況感や企業収益の悪化が懸念されているものの、日銀大阪支店が今月発表した近畿地区の短観においても、企業の景況感を表す業況判断指数(DI)にも改善が見られ、「近畿の景気は踊り場を脱却し、緩やかな回復局面に入った」との見方が示されている。

昨日の谷垣財務大臣と関西経済四団体との意見交換会においても、全国を上回る地域経済の好調さを反映して、各団体トップからは、小泉内閣に対して、税制、財政をはじめとする構造改革の一層の推進を求める声が出された。

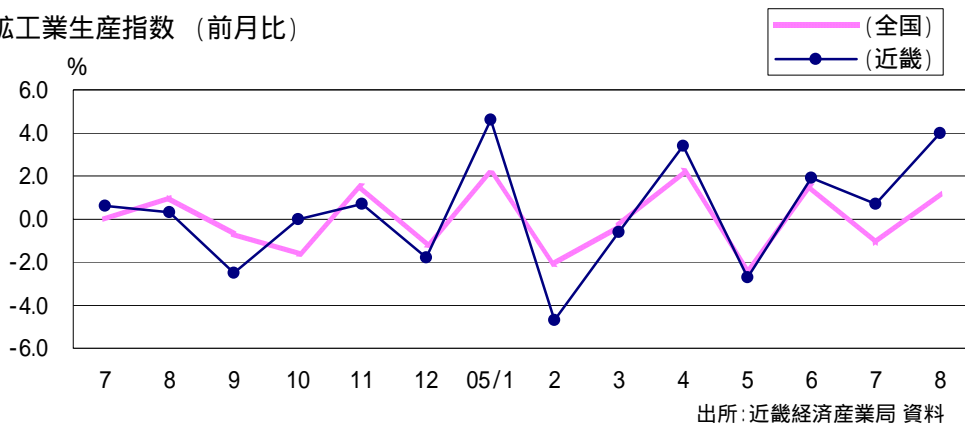
「景気は“気”から」というが、関西の経済マインドをさらに明るくしているのが、2年ぶりにリーグ優勝を果たしたプロ野球・阪神タイガースである。今シーズン優勝の経済効果は、一昨年と比べて小さいとの試算が出ているが、9月の大阪地区の百貨店売上高は前年同月比3.5%で、2ヶ月連続プラスと、消費は確実に上向いていることが示されている。加えて、なによりも数字で表せない勢いを人々に与えているとの見方もある。

ここまで日本シリーズは2連敗と苦戦しているが、関西地域の人々が、強く再生したタイガースと自らを重ね合わせて自信を取り戻し、今後、企業経営に前向きな姿勢を持ち続けることが地域のさらなる活性化につながるだろう。

< 各指標の動き >

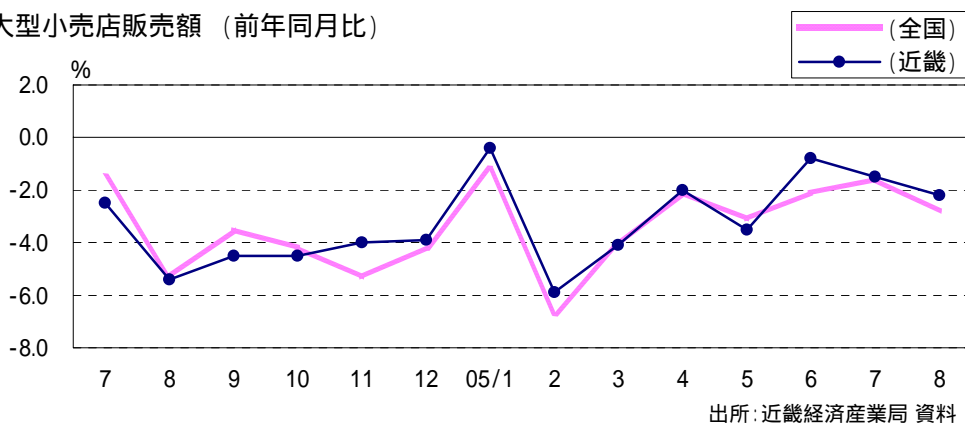


鉱工業生産指数（前月比）



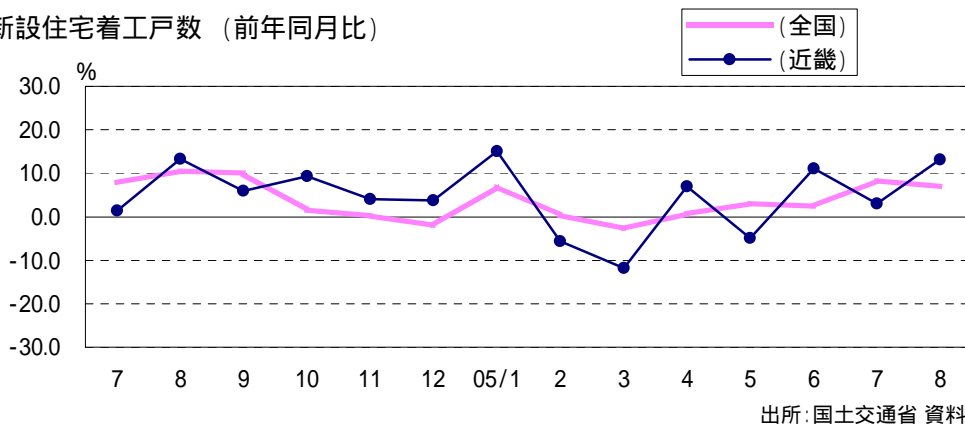
近畿は前月比 4.0%と3ヶ月連続の上昇。一般機械工業、電気機械工業、電子部品・デバイス工業などが上昇に寄与。生産は持ち直している。

大型小売店販売額（前年同月比）



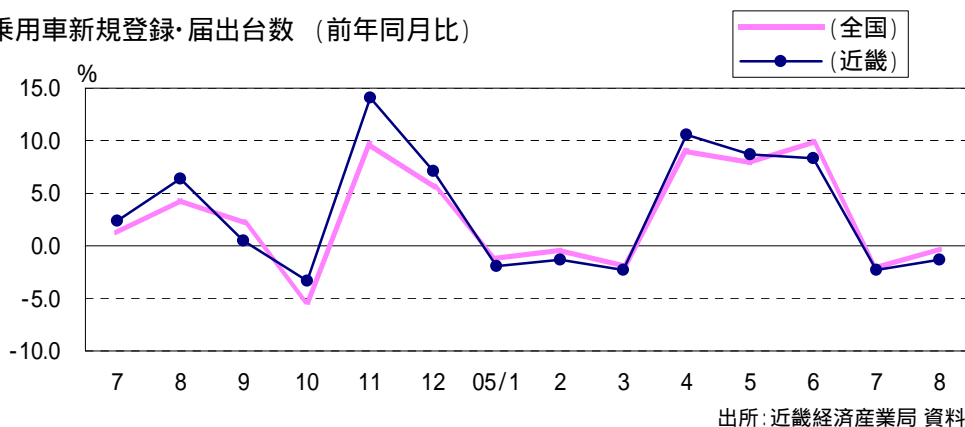
近畿は既存店ベースで前年同月比 2.2%減、18ヶ月連続のマイナス。スーパーが同 2.6%減で 22ヶ月連続のマイナスとなっているが、百貨店は同 0.1%増と2ヶ月ぶりのプラスとなった。

新設住宅着工戸数（前年同月比）



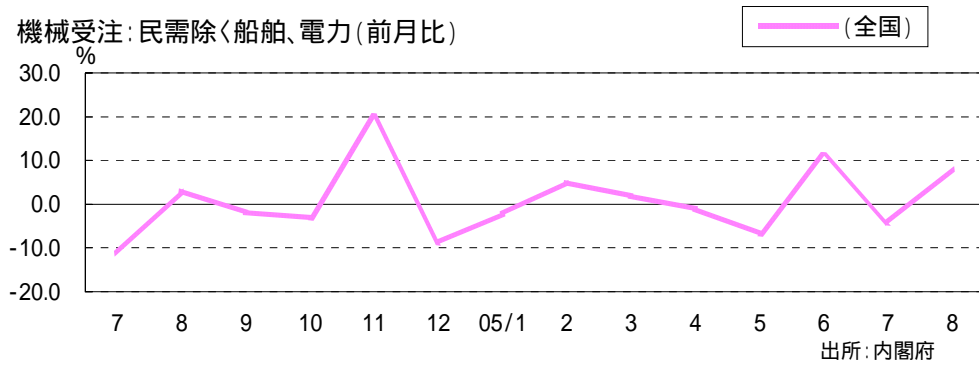
近畿は前年同月比 13.2%増と3ヶ月連続で前年を上回った。持家が7ヶ月連続で前年を下回ったものの、分譲住宅が2ヶ月ぶり、貸家が5ヶ月連続で前年を上回った。

乗用車新規登録・届出台数（前年同月比）



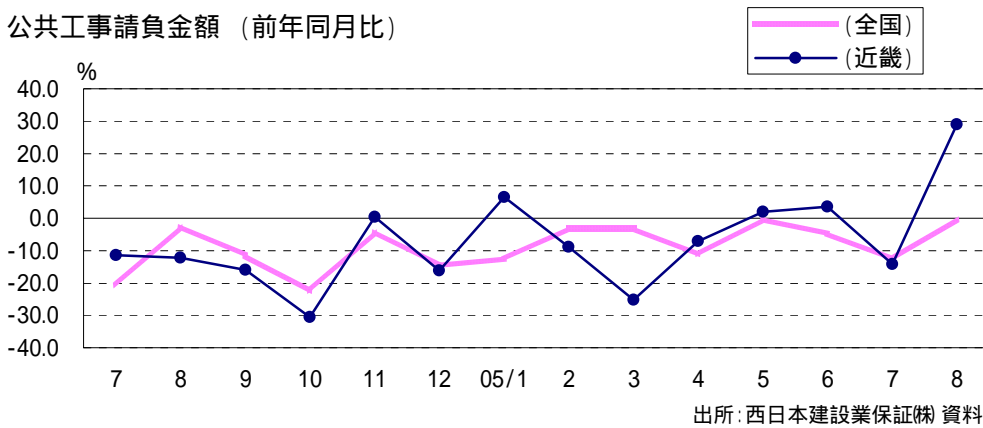
近畿は前年同月比 1.3%減と2ヶ月連続で前年を下回った。小型車と同 2.4%増、軽四車と同 5.9%増で前年を上回ったものの、普通車と同 13.1%減で2ヶ月連続で前年を下回った。

機械受注: 民需除く船舶、電力(前月比)



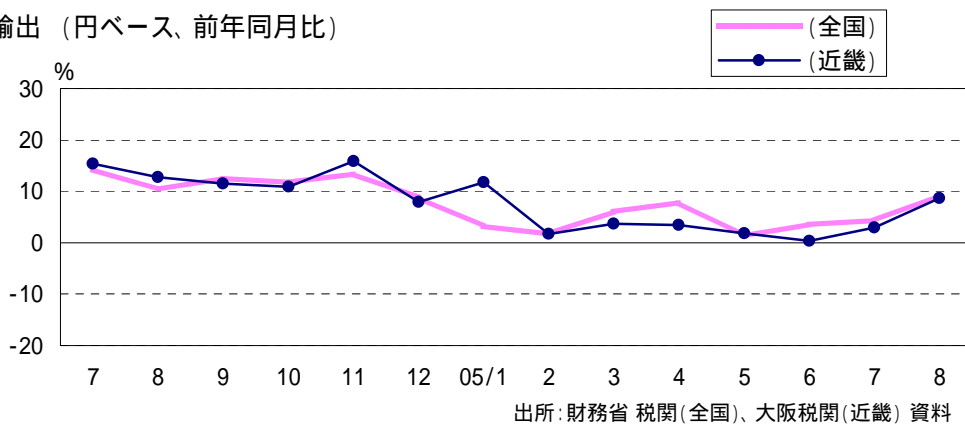
機械受注は前月比 8.2%増となった。業種別の受注は製造業が同 9.5%増、非製造業(船舶・電力を除く)は同 7.6%増となった。

公共工事請負金額 (前年同月比)



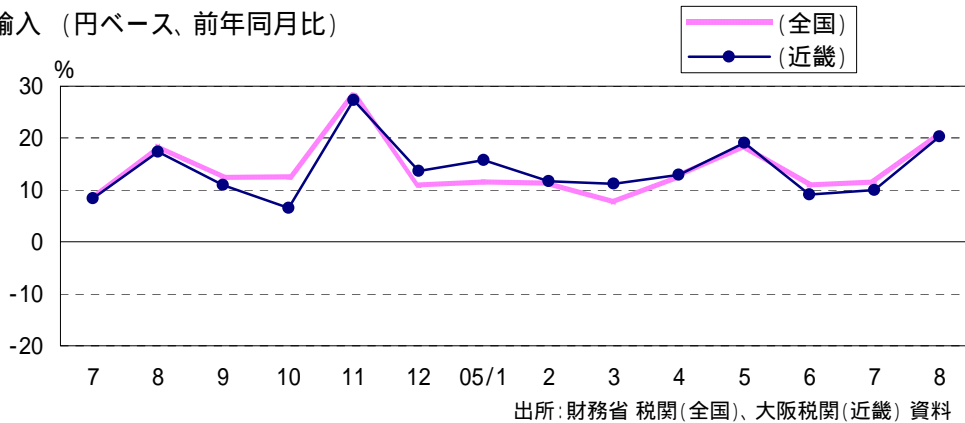
近畿は前年同月比 28.9%増。閑空地造成、寝屋川流域下水道工事、大阪市交通局地下鉄第 8 号線工事、大阪港夢洲トンネル沈埋函製作工事などが増加に寄与。

輸出 (円ベース、前年同月比)



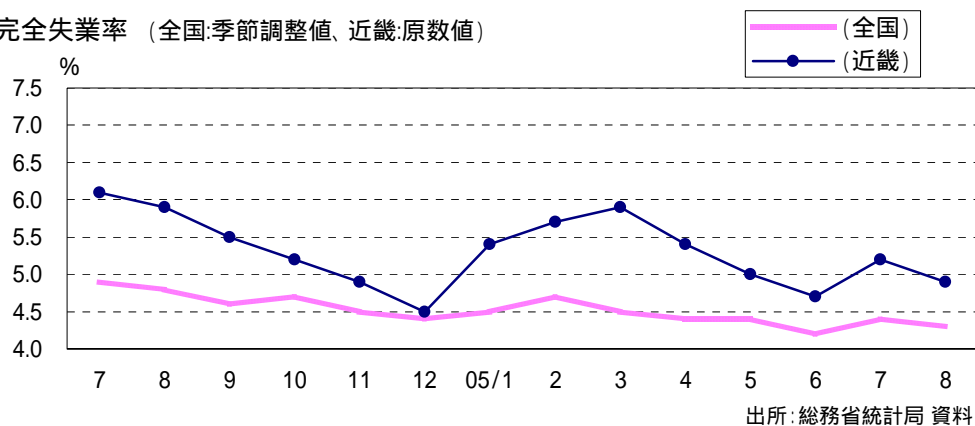
近畿は前年比 8.7%増。41 ヶ月連続のプラスとなり、6 ヶ月連続の 1 兆円超。アジア向けの輸出は 2 桁の伸びと好調。特に中国向けは 18.6%の伸び。

輸入 (円ベース、前年同月比)



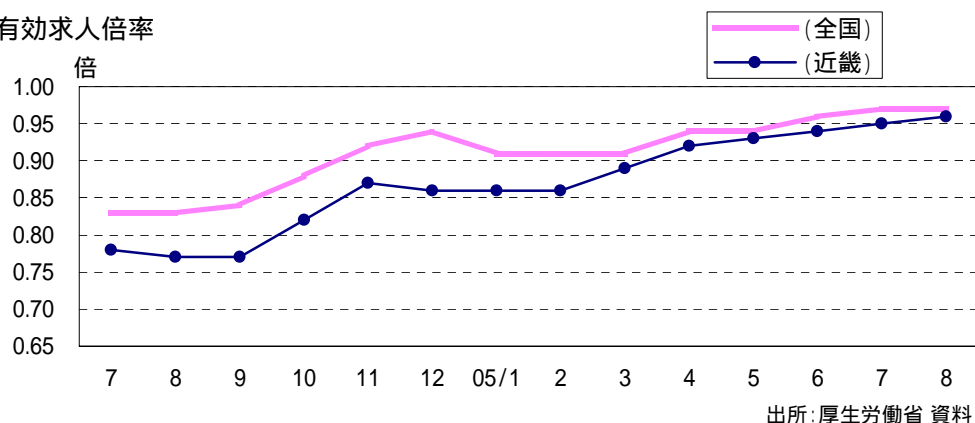
近畿は前年比 20.3%増、19 ヶ月連続のプラスとなった。アジア・中国がそれぞれ過去最高額を記録。輸入額は過去最高の 9 千億円超となった。

完全失業率 (全国:季節調整値、近畿:原数値)



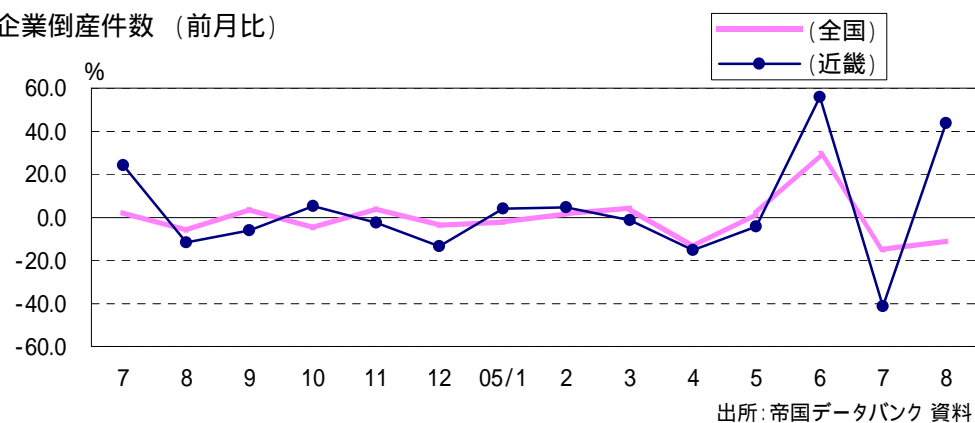
近畿は4.9%で、前年同月に比べ、13ヶ月連続で前年を下回っている。引き続き厳しさが見られるものの、緩やかに改善している。

有効求人倍率



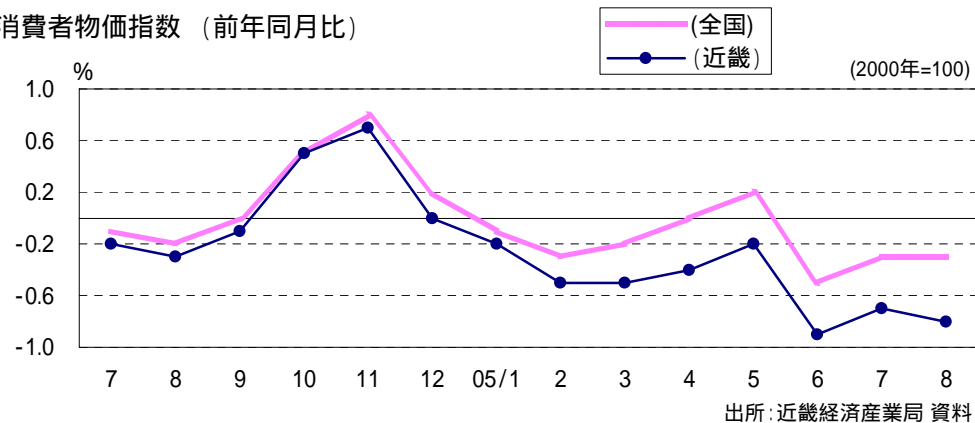
近畿は前月比 0.01ポイント上昇の 0.96倍で6ヶ月連続の上昇。大阪府では飲食店・宿泊業、建設業、情報通信業、サービス業等の新規求人数が増加した。

企業倒産件数 (前月比)



近畿は181件で前月比43.7%増。業種別では、前月比では機械を除く全業種で増加。最も構成比の高い建設の増加が目立つ。

消費者物価指数 (前年同月比)



近畿は96.7で前年同月比0.8%減。教育、保健医療などの分野が上昇している。前月比では0.0%と横ばいとなった。